

クロマダラソテツシジミの栃木県2例目の記録

森 悠馬*・工藤洋平**・田留健介***†

(令和7年3月13日受付／令和7年6月27日受理)

要約：栃木県足利市内において、県内2例目となるクロマダラソテツシジミを採集したので報告する。本種はソテツを食草とした南方系のチョウであるが、近年分布が拡大しており、気温の上昇と関係する可能性が指摘されている。

キーワード：シジミチョウ科、チョウ、分布拡大、温暖化

1. はじめに

クロマダラソテツシジミ *Luthrodes pandava* (Horsfield, 1829) は、チョウ目、シジミチョウ科、ヒメシジミ亜科に分類されるチョウの一種である¹⁾。幼虫の食草は一般にソテツ *Cycas revoluta* Thunb. (1782) とされるが、インゲンマメ *Phaseolus vulgaris* L. (1753) を餌にして幼虫～羽化まで飼育した例がある²⁾。成虫は日中、ソテツ付近をゆっくり飛び、すぐにソテツの葉や近くの草花に止まることが多い¹⁾。

本種はマレーシアやインドネシアといったアジアの熱帯・亜熱帯地域が原産で、かつて日本には生息していなかったが、1992～1993年に沖縄本島で確認され、2001年には与那国島でも確認された³⁾。これらは一時的な発生と考えられていたが、2006年に石垣島や西表島で確認された後、南西諸島から九州本土にかけて連続的に分布が拡大しており、本州、四国でも確認されるようになつた⁴⁾。分布拡大の主な要因については地球温暖化による自然分散とされており、関東地方まで分布を広げている^{4,5)}。本報告は栃木県では2例目の記録であり、足利市

では初確認となる。

2. 類似種との比較および同定

関東地方において本種はヤマトシジミ *Zizeeria maha* (Kollar, 1844) やウラナミシジミ *Lanpides boeticus* (Linnaeus, 1767) といった外見のよく似た種と混生している場合がある。ヤマトシジミは翅の裏面が白～暗灰色であるのに対して、本種は淡褐色をしており、尾状突起を有する点で見分けられる。ウラナミシジミは、翅の表面だけでは殆ど違いはなく、裏面も褐色がかかった色をしている点や、尾状突起を有するといった特徴も一致するが、後翅裏面の斑紋がウラナミシジミは全体的に波状になっているのに対して、本種には低温期型では消失する場合もあるが基部に最も近い4つの黒点が見られる点で見分けられる¹⁾(図1,2)。

3. 採集・確認記録

第一著者の森は、2024年11月5日午前11時30分頃に栃木県足利市田中町の東武伊勢崎線線路下の花壇で、コセンダングサ *Bidens pilosa* L. var. *Pilosa* (1753) を吸

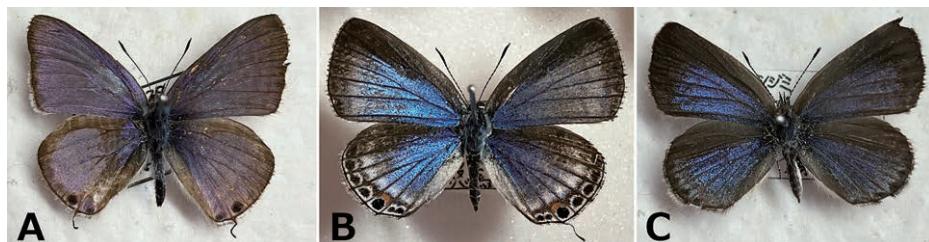


図1 近似種との表面の比較

A : ウラナミシジミ (雄) B : クロマダラソテツシジミ (雌) C : ヤマトシジミ (雌)

* 東京農業大学 地域環境科学部 森林総合科学科

** 埼玉県自然学習センター

*** 東京農業大学 学術情報課程

† Corresponding author (E-mail : kt203296@nodai.ac.jp)



図2 近似種との裏面の比較
A:ウラナミシジミ（雄） B:クロマダラソテツシジミ（雌） C:ヤマトシジミ（雌）



図3 コセンダングサで吸蜜する
クロマダラソテツシジミ



図4 クロマダラソテツシジミを確認した場所
(写真中央の線路下の花壇で確認)

蜜している本種を確認した（図3, 4）。花壇では、他にアメジストセージ *Salvia leucantha* Cav. やキバナコスモス *Cosmos sulphureus* Cav. が花を咲かせており、それらを吸蜜するヤマトシジミやチャバネセセリ *Pelopidas mathias* (Fabricius, 1798) が多数確認されたが、本種については、著者が採集した1頭のみの確認となった。確認時の天気は晴で風も殆どなかったが、捕虫網を使わずとも採集できる程にゆっくりと飛翔していた。また、確認された個体は外見的な特徴から雌であると考えられる。なお、標本は2025年2月13日現在、著者宅で保管されている（図5）。また、第二著者の工藤は2024年に埼玉県北本市内で複数個体を確認している（11月3日 北本市荒井、11月13日 北本市西高尾、11月18日 北本市西高尾）。

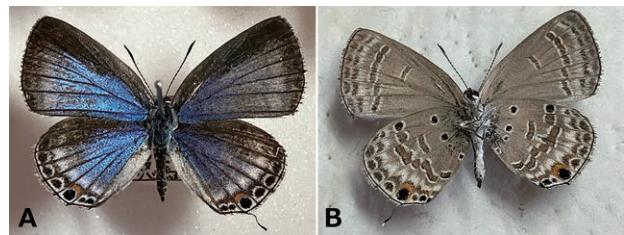


図5 クロマダラソテツシジミ（雌）の標本。
A:表面 B:裏面

4. 考 察

今回の事例における重要な情報として、1頭のみの確認にとどまったことが挙げられる。また、本種を確認した後、1時間ほど付近を散策したがソテツは見つからなかった。これらの情報から確認個体は他の発生地から飛来した個体だと考えられる。栃木県においては2023年に小山市で確認されており、その際は付近のソテツから発生したと思われる14頭が確認された⁶⁾。小山市と足利市では30km以上の距離があるが、本種は移動分散能力が高いとされるため^{6,7)}小山市やその周辺の発生地から足利市へ飛来した可能性がある。

参考文献

- 1) 須田真一, 永幡嘉之, 中村康弘, 長谷川岳, 矢後勝也 (2019) 日本のチョウ. 誠文堂新光社, 東京.
- 2) 具志堅允一. 沖縄のみどりに発生する主要な病害虫 診断・防除の現状 第2章 病害虫の個別診断・防除方法 クロマダラソテツシジミ, 沖縄県農林水産部森林管理課, <https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/_001/010/958/02-04.pdf> (最終アクセス 2025年3月6日)
- 3) 白水隆 (2006) 日本産蝶類標準図鑑. 株式会社学研教育出版, 東京.
- 4) 河名利幸, 安田清作, 鎌田由美子, 斎藤明子, 尾崎煙雄, 盛口満, 平井良明, 小林洋生 (2010) 千葉県におけるクロマダラソテツシジミの初発生確認後の分布拡大と越冬の可能性. 関東東山病害虫研究会報 第57集. pp.101-103.
- 5) 平井規央, 森地重博, 山本治, 石井実 (2008) 最近分布を拡大したチョウとガ. 昆虫と自然 43 (12): 13-16.
- 6) 青木好明 (2023) 栃木県小山市でクロマダラソテツシジミを確認. インセクト (とちぎ昆虫愛好会) 74 (2): 83-85.
- 7) 平井規央 (2009) 日本におけるクロマダラソテツシジミの発生と分布拡大. 植物防疫. 第63卷6号: 365-368.

Second Record of *Luthrodes Pandava* (Lepidoptera, Lycaenidae) from Tochigi Prefecture

By

Yuma MORI*, Yohei KUDO**, Kensuke TADOME***†

(Received March 13, 2025/Accepted June 27, 2025)

Summary : This paper presents the second record of *Luthrodes pandava* (Lepidoptera, Lycaenidae) from Tochigi Prefecture, Japan. *L. pandava* is a southern species that feeds on cycads. Its distribution has expanded in recent years, possibly as a result of rising temperatures.

Keywords : Lycaenidae, Butterflies, Distribution expansion, Global warming

*Department of Forest Science, Faculty of Regional Environment Science, Tokyo University of Agriculture. Setagaya-ku, Tokyo 156-8502, Japan

**Saitama Nature Study Center. Kitamoto-shi, Saitama 364-0026, Japan

***Scientific Information Course, Tokyo University of Agriculture. Setagaya-ku, Tokyo 156-8502, Japan

†Corresponding author (E-mail : kt203296@nodai.ac.jp)